

第1回熊本市第7次総合計画中間見直し委員会議事内容について

意見概要	委員	当日回答
<p>○地方創生 まち・ひと・しごとの総合戦略と総合計画はどういう関係にあるのか。</p>	坂本委員	<p>まち・ひと・しごと総合戦略は、総合計画と並行し、総合計画の中から人口減少対策を抜粋して策定。次の総合戦略をつくるかどうか検討中。</p>
<p>○観光政策 ・熊本にどのくらいの訪日外国人が入っていて、その人たちがどこで何をやっているのかというデータがほとんどない。ラグビー、ハンドボールを控えていながら、現状がわかっていない。 ・どこに何をどう投下をすると、訪日観光客の観光消費額を上げることにつながるのか、今後、訪日外国人、欧米豪を狙った海外展開に関して具体的に詰めていくべき。</p>	小林委員	<p>現在、現状分析をしており、それを総合計画の中で反映をさせていく。</p>
<p>・観光消費額を上げるために、外から引っ張ってくるよりも、既にあふれている国内の外国人を、九州に上陸させ熊本で時間とお金を使ってもらう仕組みの構築が重要。 ・既に上陸している人たちの行動パターンと、このラグビーで熊本に来る(今まで全く熊本に興味がなかった)人たちから、積極的にデータを収集することが重要。今後の訪日観光戦略を考える上で、その辺を集中して考えることを折り込んだほうがいい。</p>	小林委員	<p>今後、訪日外国人、特に欧米豪を意識して行動形態をつかむ必要がある。Wi-Fi等を利用しながら行動パターンを把握、検証して、戦略的な誘致活動を検討していく。この計画の中で具体的な施策事業に落とししていきたい。</p>
<p>○高齢者の事故対策 高齢者ドライバーが関わる痛ましい交通事故が起きている。これは、色んな分野に関わってくる。具体的には、免許を返納といっても、公共交通が無い地域だと返納できない。健康ポイントにもつながるので、高齢者の交通事故を減らすために、色んな事が関わってくることをうまく書けたら総合計画的になる。</p>	円山委員	<p>交通手段の確保、返納者に対するインセンティブ、健康のインセンティブなどをトータルに考え、計画の中で盛り込んでいきたい。自動運転も含めて、高齢者の車の問題に取り組んでいきたい。</p>
<p>○公共交通機関の整備 熊本の場合、公共交通機関が貧弱で高齢者の人が使いにくく、公共交通機関から離れたところ、本数が少ないところの方は車が手放せない。それが、高齢者の事故にも結びつきやすいので、まずは公共交通機関の整備、円滑に運行できる路面の確保を今後検討しなければならない。</p>	中山 委員長	-

第1回熊本市第7次総合計画中間見直し委員会議事内容について

意見概要	委員	当日回答
<p>○カウンセリングが必要な児童数 震災復興計画をどう総合計画の中に溶け込ませていくか、これから復興をどう見守っていくかが重要。 カウンセリングが必要な児童数が、未だ874人、新規316人と、復興がある程度進められている中で、高い数字が残っており非常に気になる。どう現状を分析されているのか。</p>	木村委員	<p>数字が全て震災に起因するかどうかは、はっきりと出てきていないが、時間がたつて出てくることもあるので、今、原因分析をしており、しっかりと取り組んでいく。</p>
<p>カウンセリングを受けた人数は、学校でカウンセリングを受けた児童全員か、それとも、カウンセリングを受けた中で震災に影響を受けた児童が、この数字として出てきているのか。</p>	中山委員長	
<p>当然、震災に関するカウンセリングと思っていたが、カウンセリングを受けたというだけで、何の理由で受けたかはわかっていないということか。まだ分析は終わっていないのか。</p>	宮村委員	
<p>震災前の数値(27年度)が示されているとわかりやすかった。震災では、子供、老人、女性というのが一番影響を受けているので、今後の経過を把握いただきたい。</p>	中山委員長	
<p>○震災を機に顕在化した普遍的課題への対応 ・地震をきっかけに子供やお年寄りの課題など、非常に弱いところが浮き彫りになっており、普遍化した課題が含まれている。この数値を細かく分析すると、今、子供たちが置かれている状況がわかり、それを総合計画の中に具体的に織り込むことができる。 ・地域のお年寄りの運動が減っているとか、逆に増え健康になっているなど、市内にたくさん事例があるので、市職員が関わった事例を拾い上げて、この計画見直しに繋げていければいい。</p>	木村委員	

第1回熊本市第7次総合計画中間見直し委員会議事内容について

意見概要	委員	当日回答
<p>○外国人との共生 4年前に比べて、人手不足は地域でも問題になり、外国人労働の問題がクローズアップされている。労働力としての外国人、あるいは住まわれる外国人とどう向き合い、一緒に暮らしていくかが、新たな課題になっていく。4年前とは状況が変わっているので、見直しの中心的課題に、この課題が出てくるのではないか。</p>	坂本委員	外国人労働者の入管難民法が改正され、今後の増加が予想される。本市では、ワンストップ窓口を国際交流会館に置き、相談窓口を強化する。総合計画の中にも、外国人が増えることを想定して取り組んでいく。
<p>○農業生産額の検証値の考え方 農業生産額の出荷額が平成27年から上昇傾向にあるが、震災後から生産に関わる経費が非常に多くかかっている。本当に競争力の高い持続的なことであれば、農家の収入、経費も含めた中で検証していく必要がある。</p>	井上委員	農業算出額と1戸当たりの出荷額は総収入であり、資材等も高騰しており、その中身は、後期計画の中で分析する。
<p>○地域を挙げての児童の見守り、防犯体制 先日の川崎の事件(川崎殺傷事件)を受け、保護者の関心や不安が高まっているが、保護者は、地域を挙げての見守り、防犯を期待している。総合計画の方向性の中にも、その辺は組み込まれているのか。</p>	松島委員	地域へ出向き交通安全の教室や、県警と協力して運転免許証の返納等も、自治会等で資料の配布等も行っている。今後、後期計画を作成する中でも、そういう視点も入れていく。
<p>○多様性を認め合える共生社会の実現 男女共同参画社会の実現の中で、性的マイノリティーへの理解促進が書かれているが、今後本市にお住まいの方たちに対し、婚姻届出の部分などを含め、どのように取り組んでいくのか。「多様性を認め合える共生社会の実現」のような文言を、使っていただければいい。</p>	相藤委員	パートナーシップの宣誓制度を創設したところであり、セミナー開催やリーフレット配布等、各種啓発を実施する。また、当事者の方や支援団体との意見交換会や生きづらさの解消に向けた支援等も実施していく。
<p>○児童虐待と父親の育児参加 人口減少を食いとめるためには、子供たちを増やすことが大事だが、最近、児童虐待が多数起き、大切な子供が亡くなっていく。ワークライフバランスのところの父親の役割も必要だが、熊本市は育児休業の義務化をどう考えているのか。、男性が育児休暇をとることをどう考えているのか。</p>	相藤委員	職員の育児休業及び育児休暇は、男性職員にも取得するよう積極的に呼びかけている。各家庭の事情もあり、義務化はできないが、男女ともに子育てに参画するよう働きかける。

第1回熊本市第7次総合計画中間見直し委員会議事内容について

意見概要	委員	当日回答
<p>○待機児童対策 私たちの職場にも、子供を預けられないから職場への復帰ができない女性職員がおり、雇用創出にもつながる待機児童対策は重要な課題と考える。</p>	井上委員	<p>数年間は待機児童ゼロだったが、今年度は数名出ている。小規模や企業主導型保育などニーズに応じ整備をしており、保育士の人材不足への対策も進めていく。</p>
<p>○SDGs 地震で出てきた様々な課題はSDGsの中に含まれてくるので、総合計画の中に具体的に落とし込んでいくべき。市として、SDGsにどう向き合っていくのか。SDGsを市民が理解して、市全体で取り組んでいけるような形を、わかりやすく落とし込んでいければいい。</p>	木村委員	<p>SDGsの理念は、誰一人取り残さないというような包摂性、多様性であり、本市が目指している「上質な生活都市」に相通ずるもの。総合計画の全ての施策事業に、この理念をベースに置いて検討していく。</p>
<p>SDGsに関しては、熊本には世界に誇る水があり、水会議も控えており、環境都市として、もっと具体的に世界に向けて発信していけたらいい。上質な熊本の環境をつくることにもなるし、交通や観光、農業を考えると、色んなところに絡み合いがある。今後数年間は、人の動きが活発になるので、これを機に、来る人も、住む人も、両方に負担がなくハッピーになるまちにするためにどうしたらいいか、全局挙げて考えていただきたい。</p>	小林委員	-
<p>○県内全体をけん引するリーダー都市 熊本市は、網羅され充実した行政サービスがあり、人口ビジョンも優等生の水準を保っているが、県内各市町村は人口が激減し、熊本市を目指して移住する状況にある。熊本市は人口のダム機能だけではなく、人を増やして各地域に人が散っていくぐらいの、もっとすばらしい都市に発展できる。熊本市が県を支えているという、連携中枢都市圏だけではなく県内全てのリーダーとなっていきたい。</p>	坂本委員	-
<p>○市民の役割や責任の明確化 基本理念のところで、市民と行政がそれぞれ果たすべき責任や役割を分担しと書いてあるので、市民の役割や責任をもっと打ち出したほうがいい。</p>	坂本委員	-

第1回熊本市第7次総合計画中間見直し委員会議事内容について

意見概要	委員	当日回答
○交通の安全性の向上 交通の利便性向上とあるが、今のところ非常に事故が多発しているため、安全性の向上も一緒に取り組んでいければと思う。	松島委員	-
○SDGs SDGsの17ゴールと復興計画を対応表で整理した場合に、ずれている部分や薄い部分が出てくる。SDGsは、国家レベルでやることも書かれているので、熊本市で出来ることを整理をすべき。	円山委員	-
○交通の利便性向上 交通の利便性の向上に関して、MaaSや自動運転とか、これからの10年、20年で一気に交通が変わっていく可能性がある。	円山委員	-
○人生100年時代を見据えた医療介護 重点の③健康寿命の延伸で、健康づくりはとても大事な事。人生100年時代を見据えた健康介護ケアとあるが、在宅医療がメインになってきて、今は病院で死ねないという時代になってきている。「自らの価値観により選択できる地域包括ケアモデルを構築する。」とあるが、これとはほど遠い状態が今後来る。非常に悲惨な状態を我々は予測しており、どう対応していくか我々として苦しい思いをしていくと思う。	宮村委員	-
○がん検診の完全無料化 がん検診の完全無料化はとてもいいことだが、全て無料化にはなっていない。熊本市は、指定都市の中で受診率が低いので、受診勧奨が必要であり、無料クーポンを出すとうがる。特定健診も同じで色々検討されているが、内容がもう一つよろしくない部分もあるので、医師会としっかり検討していただきたい。	宮村委員	-
○子ども医療費助成の拡充 子供を産みたい熊本市になってほしい。幼児の医療費が、中学生まで定額になり前進だと思う。もうちょっと伸ばしていけると、人口が流入してくると思う。	宮村委員	-

第1回熊本市第7次総合計画中間見直し委員会議事内容について

意見概要	委員	当日回答
<p>○妊婦加算への対応 妊婦加算が復活する様相がある。妊婦加算自体は問題があると思うが、栃木や茨城など妊産婦の医療費を助成を行っている県もあり、何か対応していけたらいい。</p>	宮村委員	-
<p>○企業誘致による雇用創出 市民所得の向上と雇用の創出に関して、私の周りの友人も、熊本県で就職したくても職種が余り無く、県外に目を向けるしかない人も多くいる。企業誘致をどんどん進め、幅広く選べる環境をつくっていただけたら、熊本に留まる人も多くなっていく。</p>	吉本委員	-
<p>○復興計画の総合計画への位置づけ 復興計画を総合計画に位置づけ直していくときに、総合計画をどこに位置付けたかを明確にし、引き続きしっかり取り組んでいただきたい。それ以外の施策においても、潜在化していた問題を震災が気づかせてくれたという視点で、もう一度、行政運営や政策をチェックし直して、総合計画にどう生かすかという議論を庁内でやっていただきたい。</p>	鈴木 副委員長	-
<p>○いろいろな立場に配慮した総合計画の見える化 復興についていけない、取り残された方々、そういう意識を持っておられる方々から見て、総合計画がしっかり目配りをしていることがわかるように、例えば、SDGsのようにいろいろなマークで、この視点から見れば、総合計画のここが、あなたにとっての総合計画ですよと見えるように表記いただきたい。</p>	鈴木 副委員長	-
<p>○総合計画を推進する体制の検討 市役所改革と絡んでいくが、この計画をつくるときに、市役所の組織と機能分担を同時並行的に考えていく必要がある。例えば、新庁舎の問題で、聞こえてくる議論は建物の話ばかりだが、建物は、仕事や機能分担が明確でないと、必要な容積や面積がわからない。この総合計画は何をするかという話であって、どうやって実現するかという話とセットで考えなければならない。</p>	鈴木 副委員長	-

第1回熊本市第7次総合計画中間見直し委員会議事内容について

意見概要	委員	当日回答
<p>○高齢者の地域での見守り 高齢化社会を迎え、ドラッカーも言っているとおり、「すでに起こった未来」が来ており、それにどう対処するかは、大きな1つの課題。熊本市という大都市になると、お年寄りが静かに死んでいたというのが今後出てくる気がしている。熊本市は、コミュニティーがしっかりしている地域だが、その中で独居老人などをどうケアしていくか、お互いに見守りでやるのか、熊本市で組織をつくって見守りをやるのか、今後検討していただきたい。</p>	中山 委員長	-
<p>○熊本型のスマートシティ 非常に不確定な未来社会が待っており、これに対応するため後期計画の中にどうやっていくのか、Society5.0ということではなくて、AIやIoTを使ってどう市民の生活を守り、市民が楽しく有意義な生活が送れるようにできるのかという視点で、熊本のスマートシティを考えていただきたい。</p>	中山 委員長	-
<p>○復興需要後の景気剥落への対応 神戸、東北地方は震災後に経済が低迷しており、もうそろそろ熊本も経済が低迷する時期に入ってきており、それに熊本市としてどう政策を立てて対処していくのか、次の計画の中に盛り込んでいただきたい。</p>	中山 委員長	-